



神戸天然物化学株式会社

**2023年3月期第3四半期  
決算補足説明資料**

証券コード：6568

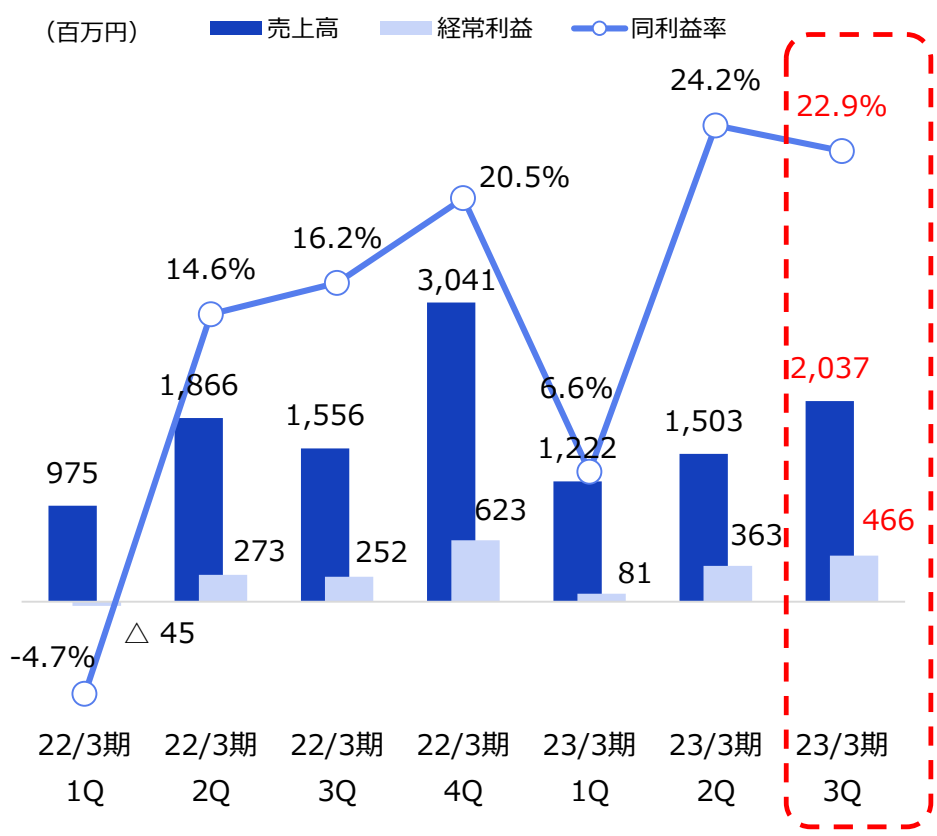
2023年02月10日



# エグゼクティブサマリー①

- 3Q累計および単独で増収増益
- 製品構成改善や量産品好調で、経常利益率、EBITDAマージンは高水準を継続
- 4Q出荷に向けての生産も着実に進捗

## 四半期推移



## ステージ別需要分野別業況マトリックス

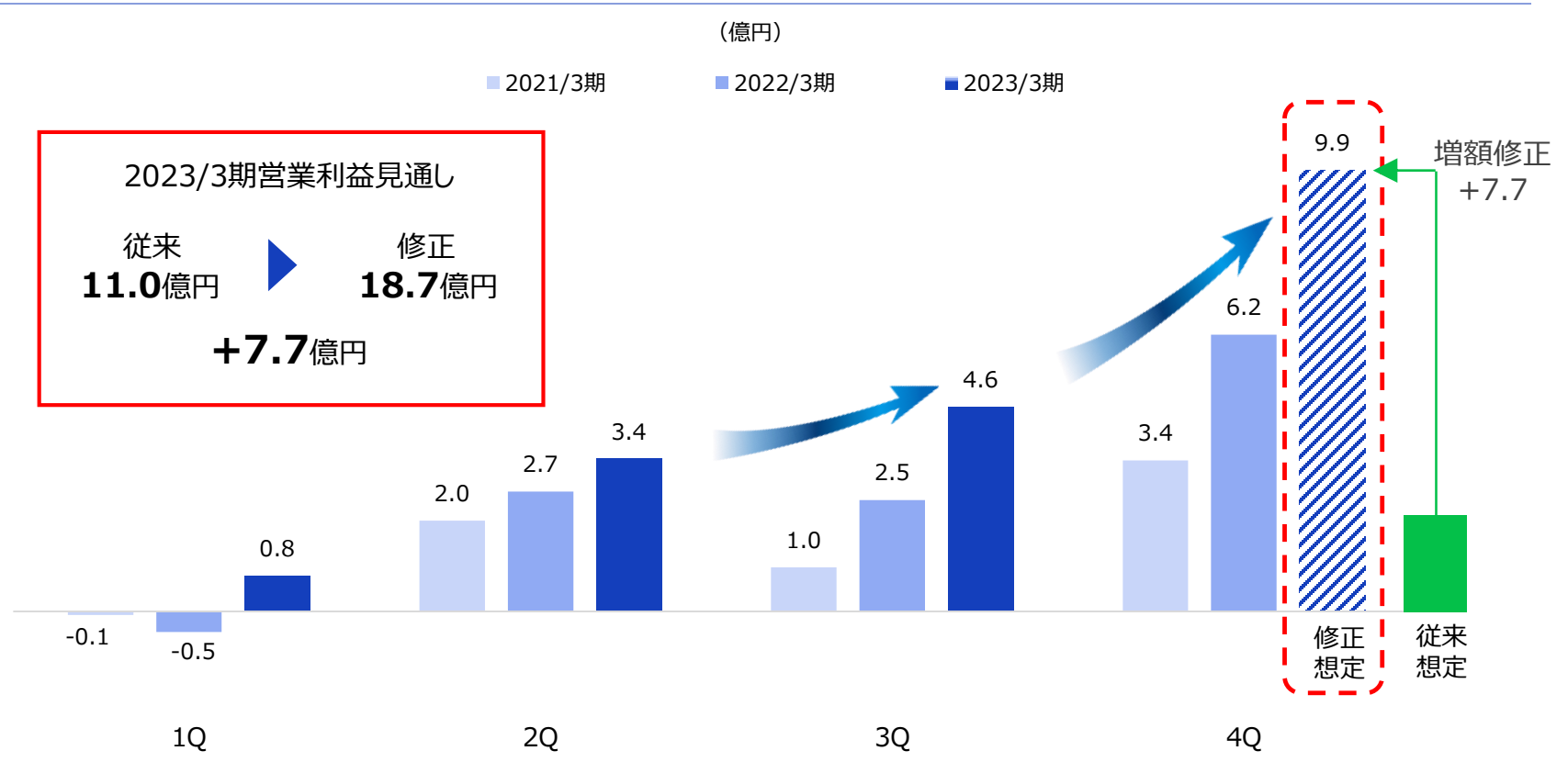
	機材	医薬	バイオ
量産	製品構成改善進捗 一部製品で在庫調整発生	売上好調 下期出荷製品の生産にも注力	堅調に推移
開発	需要好調	下期出荷製品の生産にも注力	需要好調
研究	需要好調		



# エグゼクティブサマリー②

- 需要好調及び生産能力増強投資のフル寄与を背景に、2023/3期通期見通しを上方修正
- 機材は医薬関連材料の量産が業績好調を牽引。医薬は4Qに量産、開発ステージの積み上げが想定以上に推移。バイオは開発、研究ステージの引合いが好調

## 四半期別営業利益





# 1. 2023年3月期3Q決算概要



# 1-1. 2023/3期3Q累計経営成績

- 3Q累計業績（対前年）は売上高が8.3%増、経常利益は約2倍。製品構成の改善と好調な需要を背景とした高稼働等が増益の主因。EBITDAマージンは32%と高い水準を推移
- 分野別では機能材料と医薬の量産ステージ製品群が好調に推移

## 経営成績の推移

(百万円)	2021/3期 3Q累計	2022/3期 3Q累計	2023/3期 3Q累計	前年比較	
				差異	変化率
売上高	3,915	4,399	4,763	+364	+8.3%
機能材料分野	1,718	1,904	2,149	+245	+12.9%
医薬分野	1,675	1,621	1,725	+103	+6.4%
バイオ分野	521	873	889	+15	+1.8%
営業利益	295	472	880	+407	+86.3%
経常利益	322	479	911	+432	+90.2%
経常利益率	8.2%	10.9%	19.1%	+8.2pp	—
当期純利益	162	254	628	+374	+1.5倍
EBITDA*	984	1,151	1,550	+399	+34.7%
EBITDAマージン	25.1%	26.2%	32.5%	+6.6pp	—

\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



## 1-2. 四半期別経営成績

- 例年是对2Qで調整する傾向ながら、2023/3期3Q是对2Qでも続伸。経常利益とEBITDAは過去最高を更新
- 事業部別では機能材料の医薬関連材料が好調。医薬も継続量産品を軸に対2Qで増収を確保

### 四半期別経営成績の推移

(百万円)	2021/3期				2022/3期				2023/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	1,064	1,525	1,325	2,113	975	1,866	1,556	3,041	1,222	1,503	<b>2,037</b>
機能材料	494	638	586	432	468	717	718	954	712	603	<b>832</b>
医薬	476	631	566	1,262	228	804	588	1,665	284	553	<b>886</b>
バイオ	93	255	173	418	278	344	250	421	224	346	<b>317</b>
営業利益	△8	204	99	339	△46	269	250	621	79	342	<b>459</b>
経常利益	12	215	94	354	△45	273	252	623	81	363	<b>466</b>
経常利益率	1.2%	14.1%	7.1%	16.8%	△4.7%	14.6%	16.2%	20.5%	6.6%	24.2%	<b>22.9%</b>
当期純利益	3	164	△5	237	△104	189	168	389	51	256	<b>320</b>
EBITDA*	237	428	319	590	168	488	493	872	293	562	<b>695</b>
EBITDA マージン	22.3%	28.1%	24.1%	27.9%	17.3%	26.2%	31.7%	28.7%	24.0%	37.4%	<b>34.1%</b>

\* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出

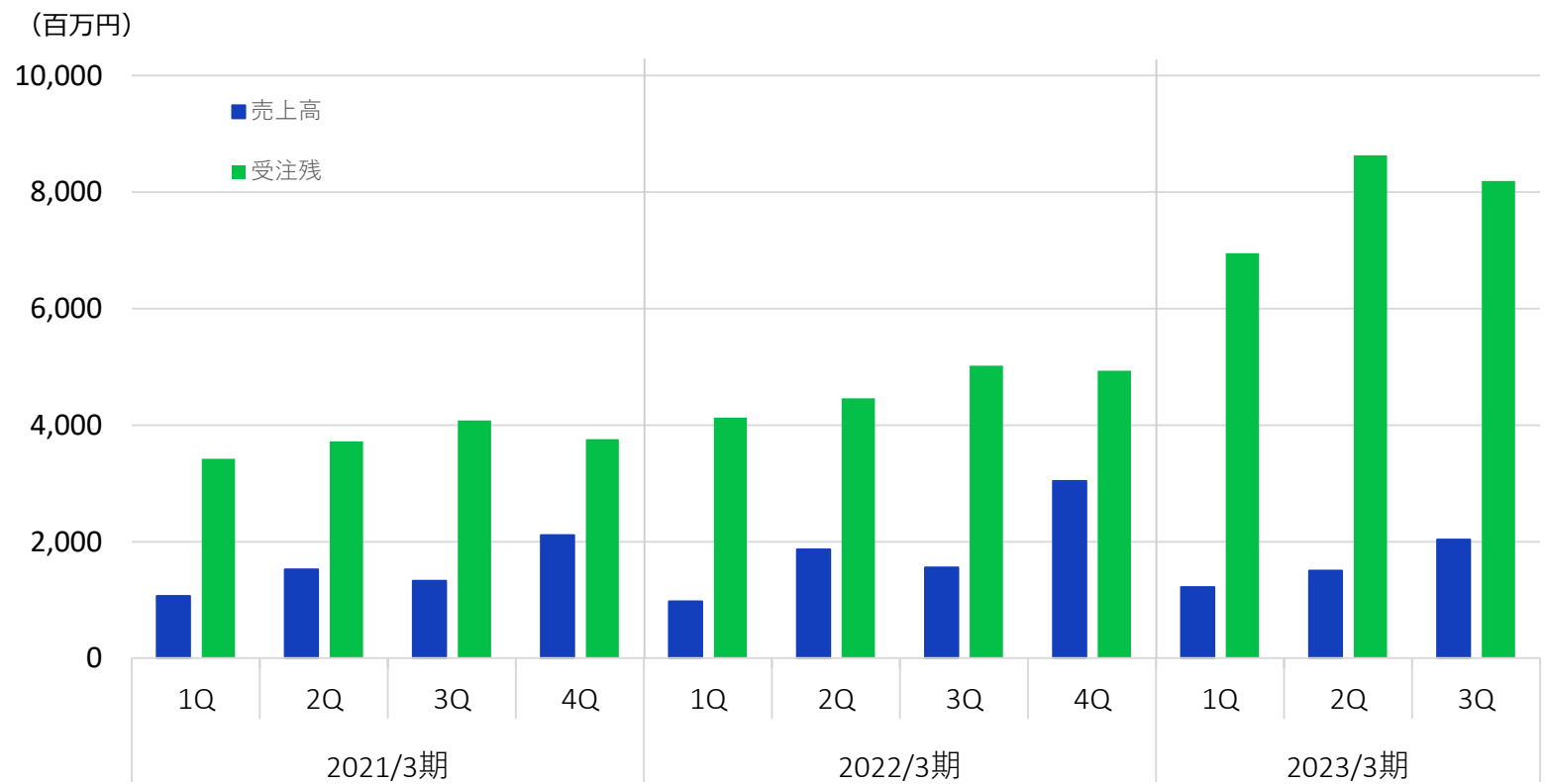


# 1-3. 2023/3期3Q末 受注残と売上推移



- 好調な需要および生産キャパの増強を背景に、着実に受注を獲得。結果、受注残は拡大基調
- 特に今上期には医薬分野の受注が増加。下期に出荷集中型でもあり、期中の受注残が急増
- さらなる受注獲得を目指し、人員配置や設備体制を含め、生産能力引上げピッチの加速が急務

売上および受注残の推移



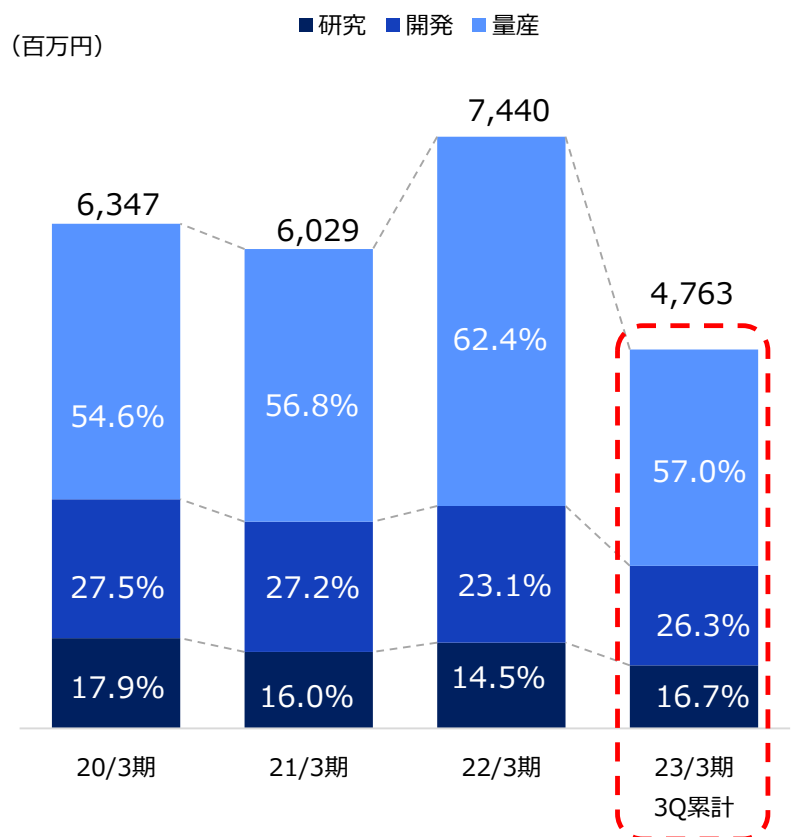
※顧客から提示されたフォーキャスト等は含まず



# 1-4. ステージ別売上状況

- 量産ステージは好調に推移。売上高は前年同期比8.5%の増加
- 開発ステージは堅調に推移。売上は4Qに大きく増加する見通し
- 研究ステージは医薬、バイオなど好調により推移。前年同期比34%増と伸長

## ステージ別売上比率



- 機能材料分野
  - エレクトロニクス関連材料の量産ステージ製品は在庫調整局面のため軟調に推移
  - 医薬関連材料の量産ステージ製品が好調
- 医薬分野
  - 量産ステージは好調に推移
  - 研究ステージはFTEの需要好調
  - 4Qに量産・開発案件の販売を見込む
- バイオ分野
  - 量産ステージは前年と比較すると弱含み
  - 開発、研究ステージで引合いが好調で売上伸長

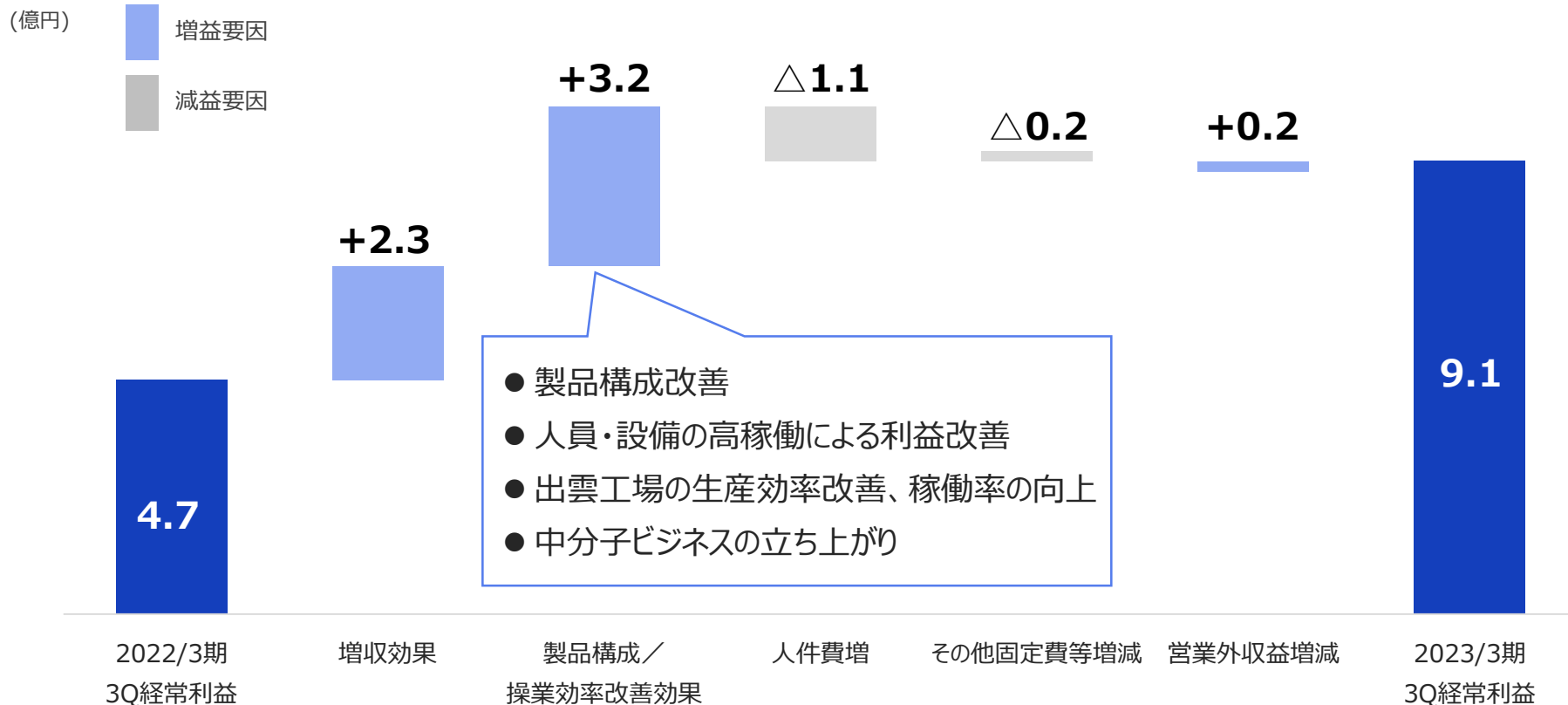




# 1-5. 経常利益 増減要因分析

- 機材・医薬での好調な売上による増収効果および製品構成差異等が大きな増益要因
- 人件費やその他固定費の増加はあるものの、減益要因としては限定的
- 結果、2倍近い経常利益を達成

### 2023年3月期3Q経常利益の増減要因





# 1-6. 2023/3期3Q末 財政状態

- 4Q販売予定の在庫膨らむも、売掛金減少によりバランスシートはややスリム化
- 出雲工場拡充など設備投資額は9.6億円を計上
- 有利子負債も順調に圧縮し、実質無借金経営を継続。自己資本比率81%超の盤石な状況で次なる成長に備える

## 財政状態の推移

(百万円)	2021/3期	2022/3期	2023/3期3Q	前期末差異
流動資産	5,137	6,347	<b>5,522</b>	△824
現預金	1,962	1,973	<b>1,246</b>	△727
売上債権	1,141	2,519	<b>1,094</b>	△1,425
棚卸資産	1,742	1,771	<b>2,949</b>	+1,177
固定資産	7,643	7,604	<b>7,786</b>	+182
総資産	12,780	13,951	<b>13,308</b>	△642
負債	2,660	3,376	<b>2,481</b>	△895
有利子負債	1,443	1,676	<b>1,146</b>	△529
未払金/未払税	431	827	<b>409</b>	△417
純資産	10,120	10,575	<b>10,827</b>	+252
負債純資産合計	12,780	13,951	<b>13,308</b>	△642

前期末発生の上債権回収

医薬量産案件の在庫増

設備投資額：9.6億円  
減価償却費：6.6億円

有利子負債は順調に圧縮

未払費用、未払税  
などの支払い進捗

自己資本比率81.4%



## 2. 2023年3月期通期見通し



## 2-1. 2023/3期業績見通し

- 機能材料・医薬分野の需要好調を背景に業績見通しを増額修正。営業利益想定は7.7億円引上げの18.7億円。修正後ベースで、前年比で12%増収、71%営業増益となる見通し
- 2Q時点で懸念していた原材料調達不安等は現時点でほぼ解消。リスク要因も後退

### 経営成績の推移

(百万円)	2021/3期	2022/3期	2023/3期見通し				対前期増減
			従来見通し (A)	修正見通し (B)	修正額 (B-A)	修正率 (%)	
売上高	6,029	7,440	7,500	8,300	+800	+10.7	+11.6%
機能材料分野	2,150	2,858	2,450	2,700	+250	+10.2	△5.6%
医薬分野	2,937	3,286	3,580	4,100	+520	+14.5	+24.7%
バイオ分野	940	1,295	1,470	1,500	+30	+2.0	+15.8%
営業利益	635	1,094	1,100	1,870	+770	+70.0	+70.9%
経常利益	677	1,102	1,110	1,900	+790	+71.2	+72.3%
経常利益率	11.2%	14.8%	14.8%	22.9%	+8.1pp	-	+8.1pp
当期純利益	399	643	770	1,330	+560	+72.7	2.1倍
EBITDA*	1,575	2,023	2,036	2,790	+753	+37.0	+37.9%
EBITDAマージン	26.1%	27.2%	27.2%	33.6%	+6.5pp	-	+6.4pp

\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



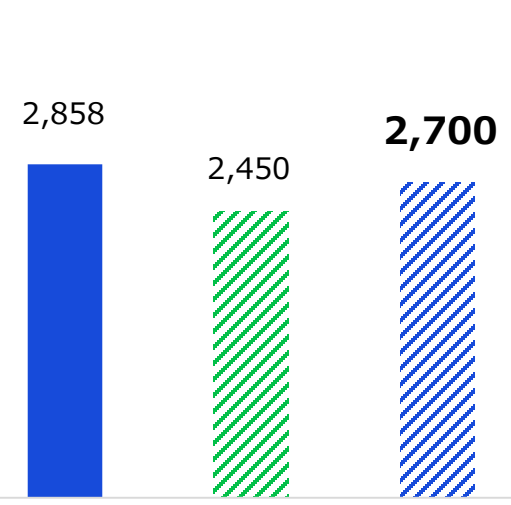
## 2-2. 分野別売上高推移

- 機材は通期を通して医薬関連材料等の量産案件好調により従来の見通しを大きく上回る見込み
- 医薬は継続的量産品が好調に推移。新規の開発案件の獲得、さらに中分子事業の業績改善が貢献し、従来見通しを大きく上回る見込み
- バイオは開発、研究ステージ案件の引合いが好調により従来見通しを上回る見込み

### 機能性材料分野

前期比 △158	従来予想比 +250
-------------	---------------

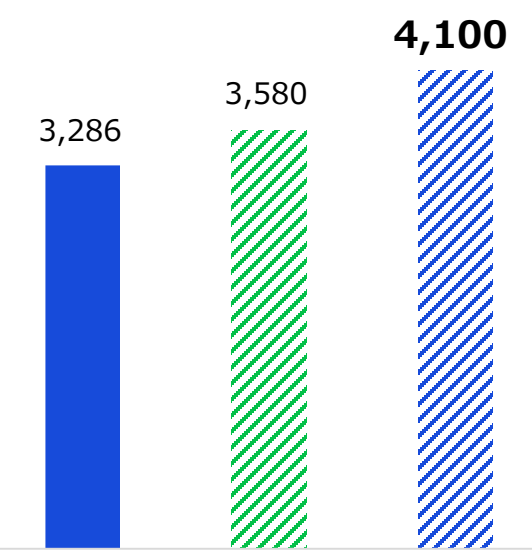
(百万円)



22/3期      23/3期      23/3期  
従来予想      修正予想

### 医薬分野

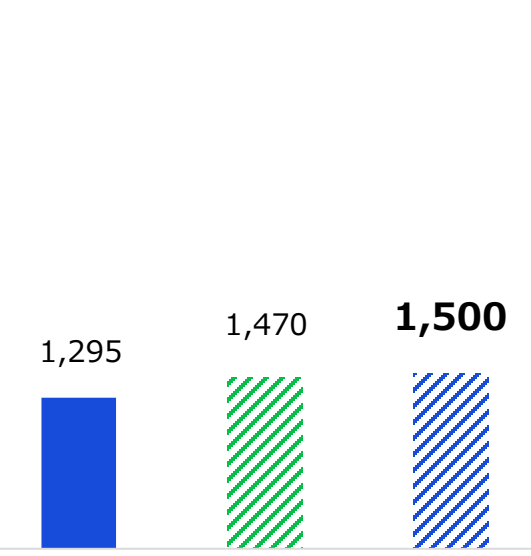
前期比 +813	従来予想比 +520
-------------	---------------



22/3期      23/3期      23/3期  
従来予想      修正予想

### バイオ分野

前期比 +204	従来予想比 +30
-------------	--------------



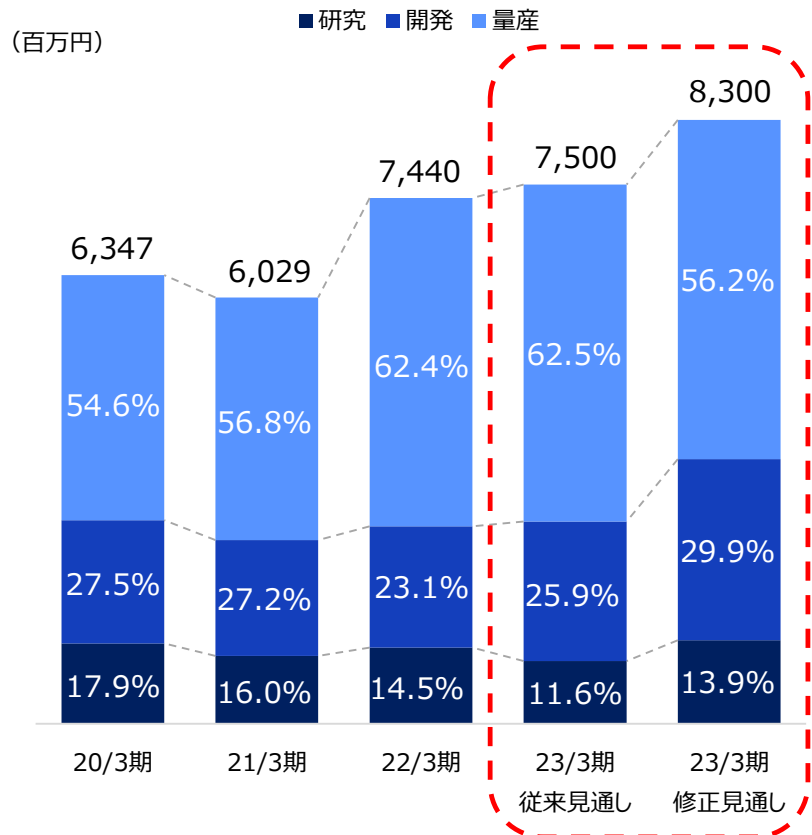
22/3期      23/3期      23/3期  
従来予想      修正予想



# 2-3. ステージ別売上見込み

- 見直し修正は医薬分野を中心とした想定を上回る開発案件の獲得が主要因
- 量産案件の売上は堅調に推移。新規設備の稼働率上昇に伴う生産能力増が下支え
- 対前年で量産ステージ比率は相対的に低下するも、次のビジネスへと繋がる構成変化と評価

### ステージ別売上比率



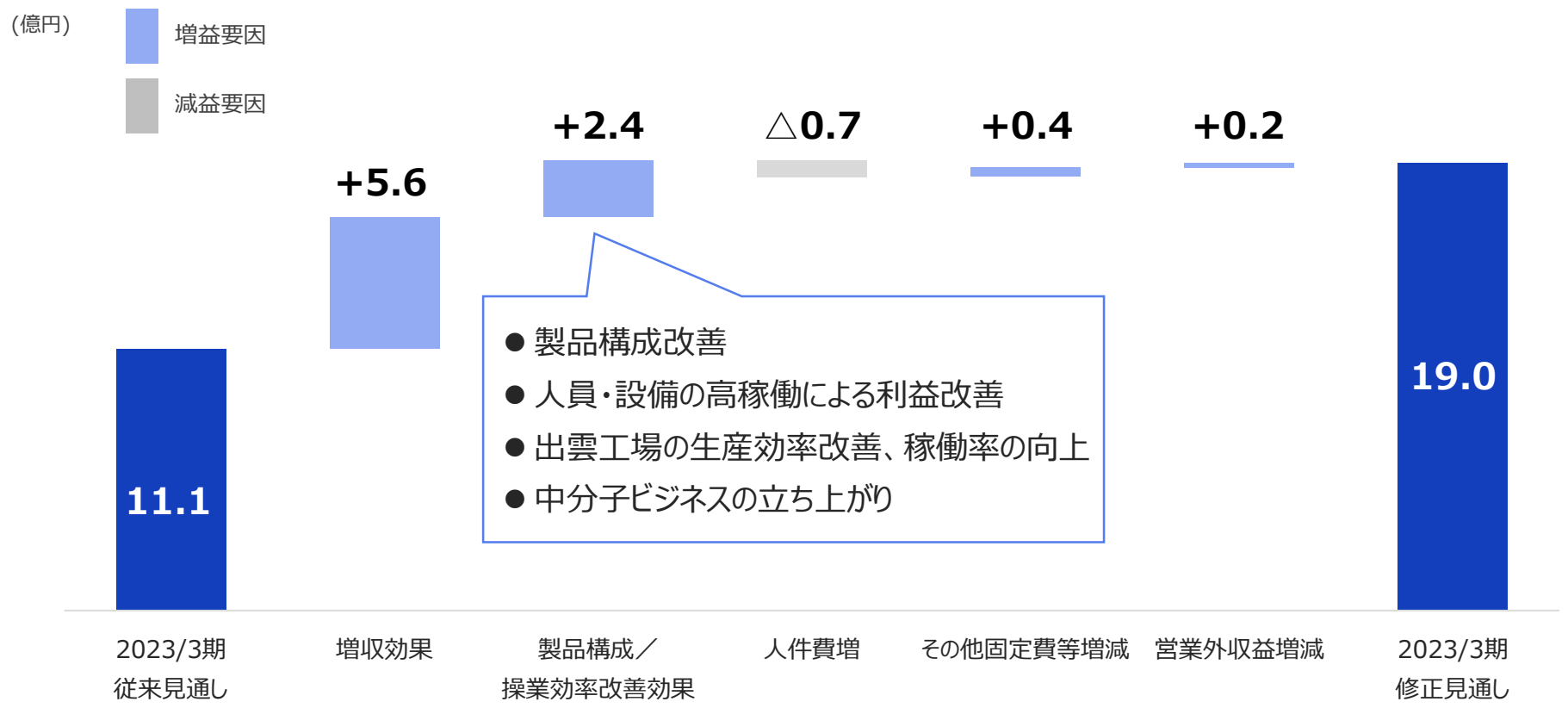
- 機能材料分野
  - 量産ステージ 従来見直しから10%の近く上振れを見込む  
エレクトロニクス関連材料の在庫調整局面により下振れ  
医薬関連材料製品の好調な需要が下支え
- 医薬分野
  - 量産ステージ 原薬を中心に想定通りに進捗
  - 開発ステージ 従来見直しから2倍近い上振れを見込む  
低分子、中分子ともに想定以上の案件獲得に成功
- バイオ分野
  - 量産ステージ 概ね想定通りに進捗
  - 研究、開発ステージ 引合い好調により、従来見直しから上振れ見込



# 2-4. 2023年3月期経常利益 増減要因分析 (対従来見通し)

- 大きな増益要因は、開発ステージ案件を中心とした売上増による増収効果
- 同時に従来想定以上の高稼働を背景とした利益改善等が増益に寄与
- 減益要因の影響は限定的。経常利益は19億円を見込む

### 2023年3月期修正予想 経常利益増減要因分析見通し

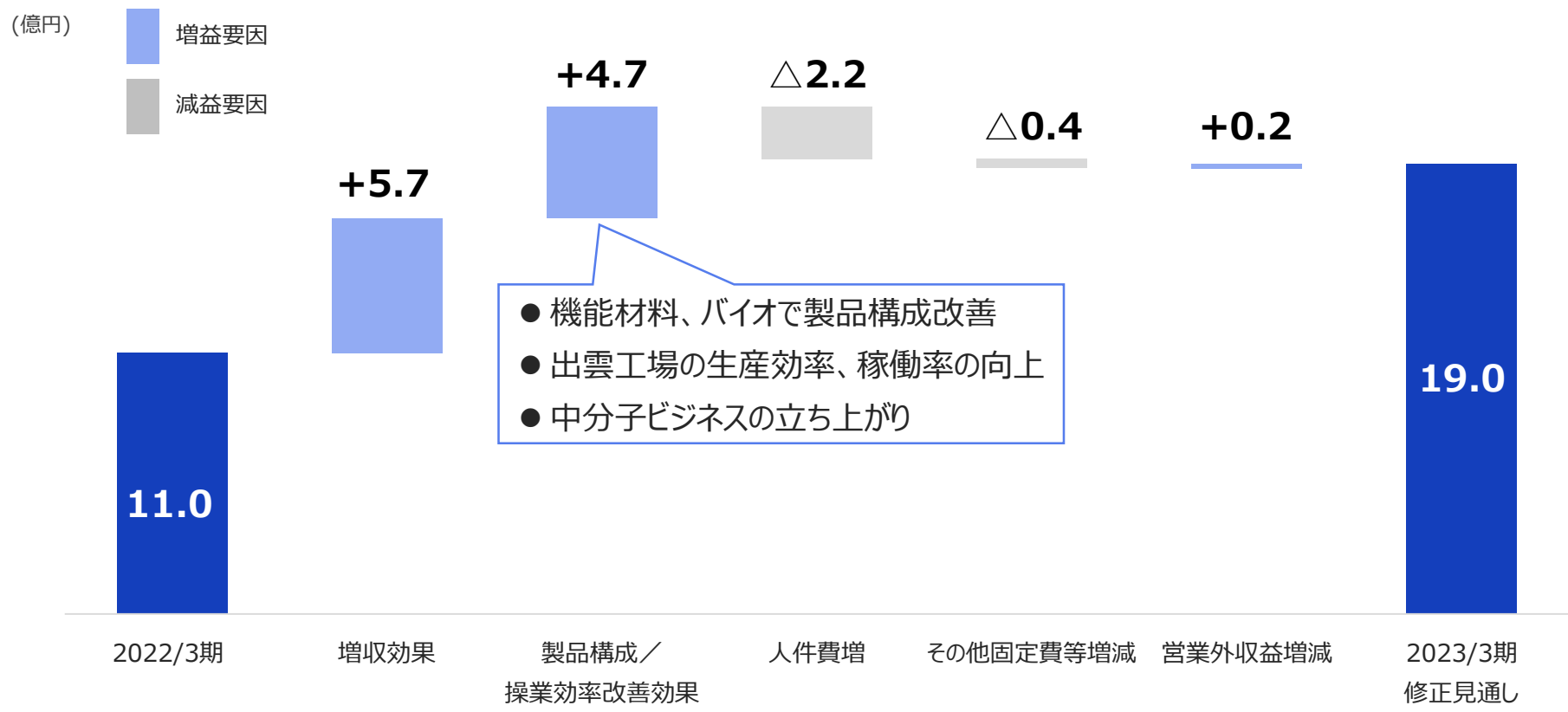




# 2-5. 2023年3月期下期経常利益 増減要因分析 (対前期)

- 大幅増益の主因は増収効果と製品構成差異/稼働率の上昇。旺盛な需要を背景に、受注残が積み上がる状況
- 費用面では人件費の増加はあるものの、増収効果や構成改善で吸収する見通し

前期対今期（修正） 経常利益増減要因分析見通し







## 2-6. 配当予想の修正

- 2023/3期の期末配当を18円に引上げ、年間28円に増配へ（予定）。業績拡大を受け、株主還元を拡充
- 配当に関しては、企業価値拡大に向けた投資余力を総合的に勘案し、業績状況に則した安定配当の継続実施が基本方針

### 1株当たり情報の推移

(円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期		2023/3期	2023/3期	
			実績	前期差異	従来予想	修正予想	前期差異
1株当たり当期純利益	67.02	51.54	82.78	+31.24	98.97	172.45	+89.67
1株当たり配当金	25.00	25.00	25.00	±0.00	25.00	28.00	+3.00
配当性向	37.3%	48.5%	30.2%	△18.3pp	25.3%	16.2%	△14.0pp
総還元性向	37.3%	48.5%	30.2%	△18.3pp	40%*	24.6%*	△5.6pp

\* 2022/5/16：自社株買い実施

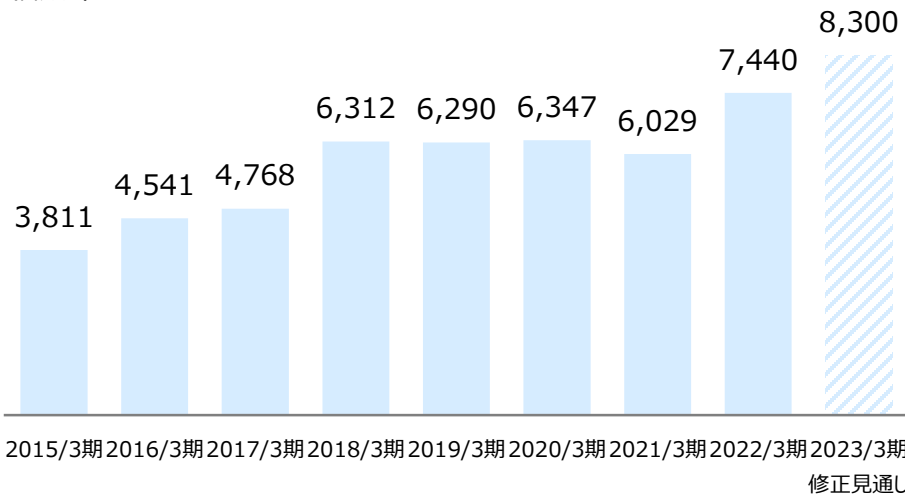


## 4. Appendix



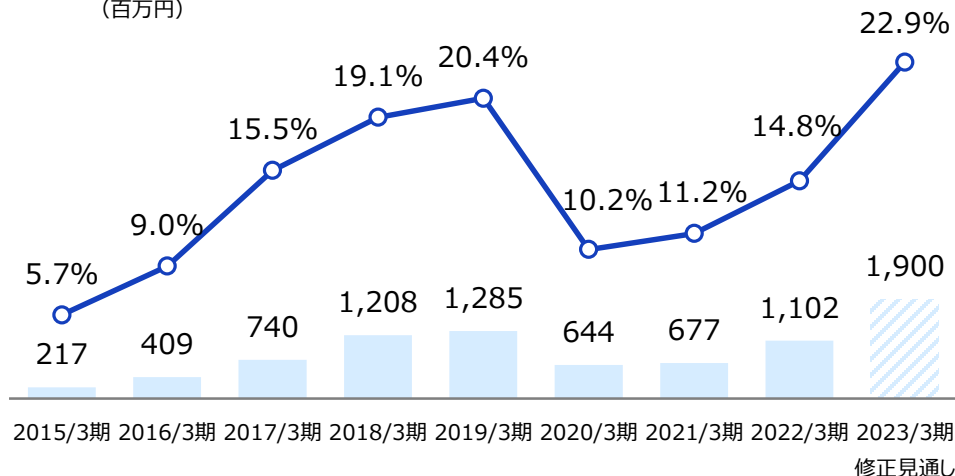
## 売上高

(百万円)



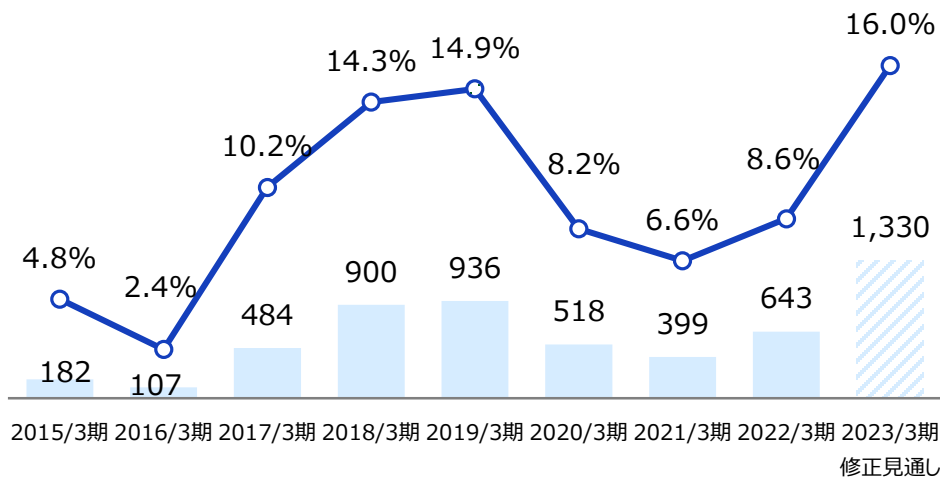
## 経常利益・経常利益率

(百万円)



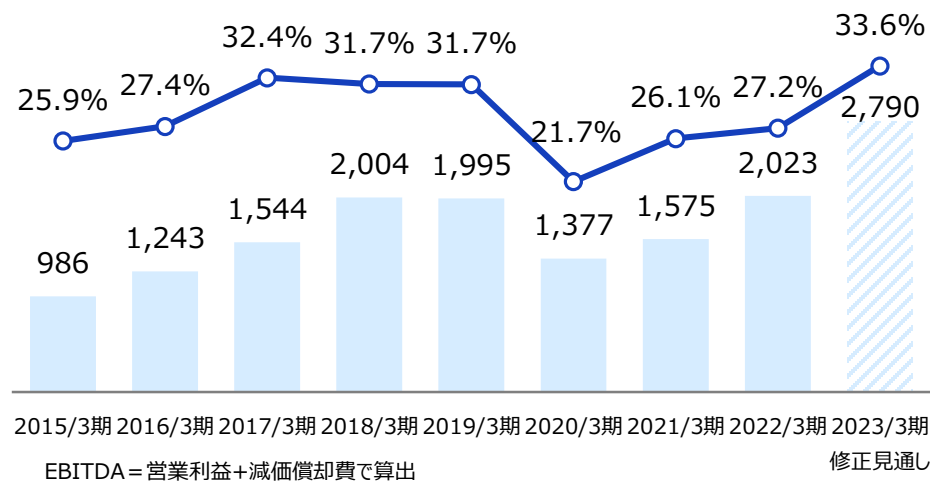
## 当期純利益・当期純利益率

(百万円)



## EBITDA・EBITDAマージン

(百万円)



項目 (単体)	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期3Q
売上高 (百万円)	6,312	6,290	6,347	6,029	7,440	<b>4,763</b>
経常利益 (百万円)	1,208	1,285	644	677	1,102	<b>911</b>
当期純利益 (百万円)	900	936	518	399	643	<b>628</b>
EBITDA* (百万円)	2,004	1,995	1,377	1,575	2,023	<b>1,550</b>
売上高経常利益率	19.1%	20.4%	10.2%	11.2%	14.8%	<b>19.1%</b>
売上高当期純利益率	14.3%	14.9%	8.2%	6.6%	8.6%	<b>13.2%</b>
EBITDAマージン*	31.7%	31.7%	21.7%	26.1%	27.2%	<b>32.5%</b>
現金及び預金 (百万円)	5,413	3,072	1,476	1,962	1,973	<b>1,246</b>
有利子負債 (百万円)	2,256	978	1,428	1,443	1,676	<b>1,146</b>
純資産額 (百万円)	8,736	9,454	9,827	10,120	10,575	<b>10,827</b>
総資産額 (百万円)	12,688	12,002	12,770	12,780	13,951	<b>13,308</b>
自己資本比率	68.9%	78.8%	77.0%	79.2%	75.8%	<b>81.4%</b>
配当性向	21.4%	20.6%	37.3%	48.5%	30.2%	-
役員・従業員数	254人	270人	285人	293人	299人	-

\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



- 1985年 ● 神戸市西区に神戸天然物化学株式会社設立
- 1988年 ● 岩岡工場開設（兵庫県神戸市）
- 1993年 ● 市川研究所開設（兵庫県神崎郡）
- 2001年 ● 出雲第一工場開設（島根県出雲市）
- 2002年 ● 神戸研究所開設（兵庫県神戸市）
- 2003年 ● 神戸工場開設（兵庫県神戸市）
- 2005年 ● KNCバイオリサーチセンター開設（兵庫県神戸市）
- 2007年 ● つくば大学内にKNC-筑波ラボラトリー開設（2012年閉鎖）
- 2009年 ● 出雲第二工場開設（島根県出雲市）
- 2013年 ● 出雲第一工場内に医薬品原薬精製・粉碎設備棟を建設
- 2014年 ● KNCバイオリサーチセンター内に培養新棟を建設
- 2015年 ● 出雲第一工場内にペプチド・核酸原薬工場棟を建設
- 2017年 ● 出雲第一工場内に新品質管理棟を建設
- 2018年 ● 東証マザーズ上場
- 2019年 ● 本社・神戸研究所開設・移転
- 2020年 ● 出雲第一工場内に原薬精製棟を建設
- 2022年 ● 出雲第一工場立体自動倉庫（W-11）着工
- 東証グロース市場に移行
- 出雲第二工場品質管理棟を建設





## < 見通しに関する注意事項 >

---

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900 (代表) [knc-ir@kncweb.co.jp](mailto:knc-ir@kncweb.co.jp)